

緑化だより

No.198 令和5年10月号



ハマクサギタマゴタケ

- 季節の花(棗(なつめ))
- 水生昆虫の話
(ヒゲナガカワトビケラ)
- 小さな世界こけ(ヒメシワゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

うさぎの森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

棗(なつめ) (ナツメ)

「玉帯(たまばはき) 刈り来(こ)鎌麻呂(かままる) 室(むろ)の樹と

棗(なつめ)が本(もと)と かき掃(は)かむため」

長意吉麻呂(ながのおきまる) 万葉集 卷16-3830

これを訳しますと

(箒(ほうき)にするために、玉帯を刈り取って来いよ、鎌麻呂君よ、むろの木となつめの木の根元を、玉帯で掃除しようと思う。)

ここでの玉帯はコウヤボウキで、室(むろ)の木はネズです。これらと鎌とナツメと詠んだ歌は生活に根ざすもので、あまり風流でない歌い方です。

ナツメは芽が出るのが一番遅くて、初夏になって新芽が出ることから「夏芽」と言われました。日本の茶道で使用されている抹茶をいれる容器を「なつめ」と呼ぶのは形がこの実に似ているからです。

ナツメはクロウメモドキ科、落葉小高木で5~10m になります。中近東からインド北西部が原産で中国を經由して日本に渡来した植物です。

葉はつやがあり三脈が目立ち、4~5月頃に葉腋に小さな黄色い花をつけます。枝に鋭いトゲがあり、雌雄同株です。果実は約1.5~3cmの大きさで、9~10月頃に赤褐色に熟し、甘い香りがします。

果肉は生食すると、リンゴの香りがし、甘くて美味しいです。

民間薬としても強壮、補血作用があり、ホワイリカーに漬けて薬酒として飲みます。乾燥させたものはドライフルーツとして料理に使用します。

ナツメは多くの漢方薬に配合されている薬用植物です。中国では5果の一つとされて(モモ、クリ、スモモ、アンズ、ナツメ)、「毎日3つ ナツメを食べると年を取らない」と言われ、健康食品、老化防止や美容効果があるとされていて重宝されています。(上村)



ナツメの実

水生昆虫の話

ヒゲナガカワトビケラ

太田川水系でもっとも数多く見つけることができるトビケラの仲間で、私はその色合いから「メタリックちゃん」とニックネームを勝手につけているヒゲナガカワトビケラさんをご紹介します。

トビケラ目ヒゲナガカワトビケラ科ヒゲナガカワトビケラ属のヒゲナガカワトビケラの幼虫は、河川の上流から下流の、わりと流れのある川底の大きな石に小石が絡みついた蜘蛛の巣のような頑丈な捕獲網をつくって、流れてくる有機物(流下珪藻や落ち葉など)を取って食べて生活しています。大きな石に小石がたくさんついていたら、それはヒゲナガカワトビケラがいる証拠で、北海道~本州、四国、九州までほぼ日本全国に生息しているメジャーな川虫です。溪流や川釣りのエサとしてもよく知られています。(沖縄県には「オキナワヒゲナガカワトビケラ」が生息しています。) 幼虫の体長は30~40mmで、わりと大きめなモコモコしたイモムシのような姿。

体色はテカテカした黒茶褐色から深緑色っぽい(私的にはガンメタリックカラーな)個体が多い印象で、写真のように頭部が細長くてちょっとオシャレな感じの模様があります。細長い頭部の先端にあるつぶらな眼と眼の間に黒い縦模様が入っていたらヒゲナガカワトビケラで、もし何も模様がなければチャバネヒゲナガカワトビケラとなります。

落ち葉などを多く食べているのでタンニンを多く含んでおり、捕まえてシャーレの中に入れておくと、時間が経つにつれてだんだん水が紅茶のような色になってきます。ちなみに、長野県の一部の地域では、カワゲラやヘビトンボと同様に食用として利用されているそうです。

成虫の体長は16mmで、その名のとおりヒゲ(触角)が長いのが特徴。4月から11月頃にかけて出現し、家の灯り等によって来るので、みなさんも写真のような姿を近くで見たことがあるのではないのでしょうか? 地味ですが割と大きめのトビケラなので、存在感もあります。

今年も、かろうじて我が家に飛来してきましたが、昔に比べるとその飛来数は激減しています。トビケラは成虫も幼虫も人間にとって無害なだけでなく、川の中の汚れを浄化してくれる大切な存在です。見た目から、よく害虫呼ばわりされたりしますが、殺虫剤などで駆除せずに大切に目守ってあげてほしいと強く願います。(西村)



ヒゲナガカワトビケラの幼虫



ヒゲナガカワトビケラの成虫

小さな世界 こけ

ヒメシワゴケ

樹幹に着生するコケは何種類かありますが、その中の一つにヒメシワゴケがあります。

ヒメシワゴケはセン類のヒナノハイゴケ科ヒメシワゴケ属で雌雄同株。

樹幹を這い、不規則に枝分かれます。

葉は左右に密につけます。葉の大きさは0.5~1.0mm、幅0.5mm前後の卵形で全縁、葉の真ん中の線(中肋)はなく、葉の先はやや尖がっています。葉に中肋がないためにタイ類と見間違えそうですが、近づいてみると上記の特徴から判別できると思います。



ヒメシワゴケ

胞子のう(蒴)は枝先に立ち上がってつき、蒴柄は1.0mm前後、蒴の大きさは長さ約1.0mm。1月頃からでき始め、5月下旬から6月頃成熟し、胞子を出します。

園内では、緑の相談所付近、第2駐車場などの樹幹を探してみれば見つけることができるでしょう。(山根)



ヒメシワゴケの胞子体

研修会のご案内

- 10月 6日(金)『10月の自然探勝』 10:00～12:00 学習展示館前 集合
園内を歩き、植物を観察します
講師：NHK 広島文化センター
アシスタント 上村 恭子
※自由参加、無料、荒天中止
- 10月 8日(日)『秋のきのこ教室』 10:00～14:00 第3駐車場 集合
園内で自由にきのこを採集し、午後から学習室に持ち寄り、鑑定します。
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章
※自由参加、無料、採集用カゴ持参、荒天中止
- 10月 15日(日)『どんぶり教室』 10:00～12:00 学習室 集合
どんぶりでの遊び方などを学びます
講師：日本シエアリングネイチャー協会
トレーナー 住吉 和子
※要予約(先着 15名)、無料
- 10月 22日(日)『つづらふじでカゴ作り』 10:00～14:00 学習室 集合
作り方の基本を学び、実践します
講師：つづらふじ造形作家
飛河 道雄
※要予約(先着 15組)、材料費 1,500円
- 10月 28日(土)『こども写生大会』 10:00～12:00 学習室 集合
園内で自由に絵を描きます
講師：元中国新聞図画教室指導審査員
横山 直江
※自由参加(審査対象は小学生以下)無料、描画道具持参(画用紙以外)
雨天中止

お知らせ・ご案内 ☆

※10, 11月は休園日なし

・第7回ひろしま遊学の森

四季の移ろい写真コンテスト

写真募集中

締切り;11月30日(木)

詳細はHP,チラシでご確認ください。

・10th広島県緑化センター Instagram フォトコンテスト 2023

募集期間 10月1日(日)～11月30日(木)

詳細はHPでご確認ください。

・ひろしま遊学の森

スタンプラリー2023 秋

10月7日(土)～11月19日(日)

県緑化センターと市森林公園でスタンプを集めてプレゼントゲット!

・もみじ祭り 2023

10月21日(土)～11月12日(日)

期間中紅葉クイズラリーでプレゼント ゼット!

◎ 展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

つづらふじ手作りカゴ作品展

～10月22日(日)



過去の「つづらふじ手作りカゴ作品展」より